練馬区立中村中学校（２年目）

【校長】 大石　光宏
【生徒数】 568 名
【学級数】 18 学級
（通常級 15 学級、特別支援学級３学級）

次の取組へ

【課題・改善】

・「一人１台端末」を利用した動作分析への意欲は 50%程度に留まった。
⇒授業で ICT を活用することで、理解が深まり、技能の向上に役立ったと回答した生徒が 90%以上であった。
・ICT を活用することにより、授業内での運動場面が減るため、休み時間や昼休み、放課後、自宅などで確認を促し、改善につなげた。
・スポーツ選手やスポーツに関わる仕事をしている人からコーチングを受けてみたい生徒が 90%であった。

【実態・課題】

・「運動やスポーツのコツやポイントを知りたいか。」という設問に、約９割の生徒が肯定的な回答をしている。
・「保健体育の授業で一人１台端末を活用したいか。」という設問に、約６割の生徒が否定的な回答をしている。
・「運動をする際、外部人材から教わりたいか。」という設問に、約８割の生徒が肯定的な回答をしている。

目標
・**中中体操プラス**（いつでもどこでもできるウォーミングアップ）の定着（肯定的な回答 80%以上）
・一人１台端末の活用した深い学び（ICT 機器活動充実度の肯定的回答 80%以上）
・ゲストティーチャーや教科横断的な視点を踏まえた取組

【成果】

・**中中体操プラス**を校外（部活や課外活動）でも行ったことがある、と回答した生徒が 45%に UP した。また、運動やスポーツの意欲 UP につながる、と回答した生徒が 77%に上がった。（令和４年度比 17%UP）
・ICT の活用により、視覚的に自分の動きやゲームを分析することで、生徒同士や教師のアドバイスを共有でき、主体的に動画を確認し、課題改善をする生徒が増えた。
・外部人材により今後も外部講師を招いた授業を受けたい、と回答した生徒が 98%に UP した。

【取組】

○中中体操プラスに向けた取組
・既習の体操をリニューアルし、運動会種として全校で実施した。

○体育での一人１台端末活用の取組
・SPLYZA やスプレッドシートの運用による動作分析や、ゲームの振り返り、健康課題修正の取組を進めた。

○オリンピアンやパラリンピアンを招き、講演会や体験活動、エクササイズを実施
・オリンピアンやパラリンピアン、区のゲストティーチャーを招き、講演会や体験授業を実施した。

【取組（詳細）】

○新たな中中（なかちゅう）体操プラスに向けた取組

・模範演技の動画を見たり、ペアやグループ内で改善すべきところを確認しあう。
・学年間をまたいで、お互いに発表しアドバイスをしあう。
・既習の体操に音楽を付けた動画をクラスルームを通して全校で共有し、体育の授業時に練習し、運動会で発表した。
・部活動や小中連携、家族など課外活動で行う場面が増え、様々な人と、自ら運動に親しむ場面が見られた。

中中体操プラスを運動会時に全校で発表

○保健体育科におけるタブレットの活用

SPLYZA の動画アプリを使い課題を指摘し合う様子

・ゲームを録画し、チームで気づいたことや課題などを、付箋機能で入力し、分析したり話し合ったりして、次回の練習やゲームに生かす。
・模範演技の動画を見たり、つまずきの場面を教師のアドバイスを受けながら追究していく。
・スプレッドシートによる、一つ一つの動作をチェックし、スモールステップ方式で完成に近づけていく。

○アスリートによる授業（７人制ラグビー＆ウィルチェアーラグビー）

・オリンピアン（７人制ラグビー）やパラリンピアン（ウィルチェアーラグビー）による、講演会や実演会、体験授業により、スポーツや運動の興味を高めることができた。
・スポーツの特性や楽しさを身近で味わうことにより、スポーツが日常に溶け込み、「だれでも、どこでも、いつまでも」といった生涯スポーツにつながった。
・年齢、性別、障害を問わずスポーツを楽しむことを通じて、多様な関わりを体感することができた。

ウィルチェアーラグビー
池崎大輔選手